花火大会「共催」へ

福知山市 安全確保へ関与強める

福知山市は4月27日、8月に市内の由良川河川敷で開催が予定される花火大会について「共催」という形で関与する方針を明らかにした。昨年までの「後援」から関わり方を強めたことについて、大橋一夫市長は「安心安全をより確保するためには、市が花火大会の運営や安全対策に、これまで以上に関与する必要がある」との考えを示した。【岡田圭司】

花火大会への市の関与について説明する大橋市長（左端）ら＝福知山市役所

昨年8月に開催された「福知山HANABI2025」に対し、市が設置した検証会議からの報告書を踏まえたもの。露店爆発事故から11年ぶりに行われた2024年以降、市は2年連続で「後援」という立場で関わってきたが、関係機関や花火大会の主催団体が市の共催を望んでいることや、検証会議が花火の打ち上げ発数を昨年の4千発から6千発まで拡大することを許容したことを受け、「共催」で安全確保の実効性を高める。

これに伴い市は、花火大会で市が担う役割や責任、運営への関与などを定めた主催団体との協定を締結する方針。打ち上げ発数を13年以前のドッコイセ福知山花火大会の規模（6千発）以下とすることや、降雨や増水、強風時の中止判断基準や自然災害など突発事象への対応を定めたマニュアルの作成などを求めていく。

主催団体と協定締結

共催となれば、市は関係機関との調整や運営上の安全管理に対し、必要な職員の派遣などを想定。万一の事故に備えた被害者対応の保険（1人1億円以上）加入に補助金を交付するとし、保険の適用範囲を超える補償が生じた場合について大橋市長は「第一義的な責任を負うのは主催者だが、市も共催者として、主催者の責任を補完しなければならない」と述べた。

8月11日に開催を予定

一方、花火大会を主催する「福知山HANABI実行委員会」は、今年も8月11日に音無瀬橋近くの由良川河川敷での開催を計画。市が共催の方針を示したことについて、実行委員長の奥田友昭さんは「3年がかりでようやく共催までたどり着くことができた。市と連携を強化し、安全で誰もが楽しめる花火大会にしたい」と話す。

打ち上げ発数は6千発程度を想定し、河川敷には6千人分の有料観覧席を設ける予定。奥田さんは「市庁舎や福知山城にも観覧席を設けられるよう市と調整し、体が不自由な人が混雑を避けて安全に花火を見られるようにしたい」と語った。

露店については御霊公園と広小路通り、城下通りを合わせ、昨年を上回る50店の出店を予定。昨年と同様、出店者を対象にした安全講習会の実施など、安全を第一にした花火大会の開催を目指している。